

第3回 社会保障審議会統計分科会
疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会

日 時：平成14年5月1日（水）

10:00～

場 所：専用第10会議室（合同庁舎5号館2階）

議事次第

- 1 ICD-O3（国際疾病分類－腫瘍学第3版（仮称））の日本語版の検討
- 2 その他

資 料

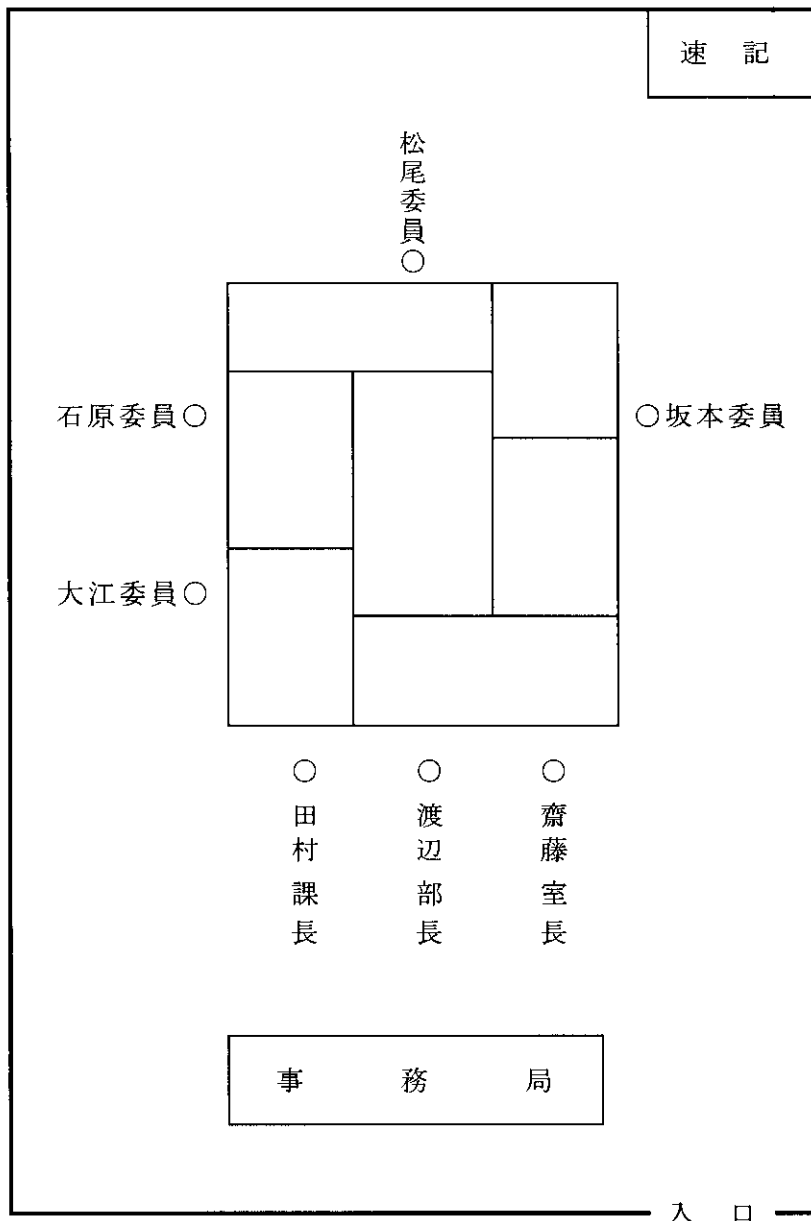
- 資料1 ICD-O3（国際疾病分類－腫瘍学第3版（仮称））仮訳
資料2 ICD-O3日本語版の正式名称について

（参考1）複数の日本語表記が存在する用語への対応について

（参考2）今後の予定について

第3回社会保障審議会統計分科会
疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会

座 席 表



国際疾病分類—腫瘍学

第3版

(仮訳)

I C D - O

International Classification of
Diseases for Oncology, Third Edition

厚生労働省大臣官房統計情報部

ICD-O3 (International Classification of Diseases for Oncology Third Edition) 日本語版の名称について

我が国において、ICD-O3の日本語版が広く我が国で使用されるよう、その名称については適切なものとする必要がある。

過去に刊行されているICD-10及びその補助分類等の原本及び日本語版の名称は、以下である。

・ 原本名称 (略称)

／ 日本語版名称

① International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems Tenth Revision (ICD-10)

／ 疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 準拠

② International Classification of Diseases for Oncology Second Edition (ICD-O)

／ 国際疾病分類-腫瘍学 第2版

③ Application of the International Classification of Diseases to Dentistry and Stomatology Third Edition (ICD-DA)

／ 国際疾病分類 歯科学及び口腔科学への適用 第3版

④ Application of the International Classification of Diseases to Neurology Second Edition (ICD-NA)

／ 国際疾病分類 神経疾患への適用 第2版

(参 考) ICD-9 及びその補助分類

・ International Classification of Diseases 1975 Revision

／ 疾病、傷害および死因統計分類提要 昭和54年版

・ International Classification of Diseases for Oncology 1976 (ICD-O)

／ 疾病、傷害および死因統計分類提要 腫瘍学

(参考 1)

平成 14 年 4 月 17 日

日本病理学会理事長 殿

厚生労働省大臣官房統計情報部長

国際疾病分類－腫瘍学第 3 版（仮称）の作成に係る日本語訳の選択について（依頼）

貴学会に於かれましては、かねてより国際疾病分類－腫瘍学（ICD-O）を、医学研究、がん登録及び診療情報管理等に活用いただき、わが国での ICD の普及に関し多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ICD-O は、2000 年に改訂がなされ世界保健機関（WHO）より International Classification of Diseases for Oncology Third Edition（ICD-O 3：国際疾病分類－腫瘍学第 3 版（仮称））として公表されています。現在、この日本語版については、厚生労働省に設置した社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会において検討しているところです。各用語の日本語訳は、従来の版では、一つの英語表記に対して複数の日本語訳が存在するものは、別添の 1. のように特殊な表記法を用いていましたが、今回の版では、別添の 2. の趣旨により一つの英語表記に一つの日本語訳を対応させるよう検討しています。

つきましては、別添の 3. にしたがって、資料のリスト中の各用語についていずれの日本語訳が適切か、貴学会からのご意見を賜りたく存じます。平成 14 年 5 月 31 日までに、厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課疾病傷害死因分類調査室あてに、ご回答の程お願い申し上げます。

<別 添>

1. ある英語表記に対応する日本語訳が複数存在する場合に、国際疾病分類腫瘍学第1版及び第2版では、以下の表記法を用いていた。

① ()

() 内の語は、あってもなくても影響しないことを示す。

例示

英語表記	日本語表記	複数の訳語
Hepatoblastoma	肝芽(細胞)腫	肝芽細胞腫 肝芽腫

② < >

ある用語について、その中の一部又は全体にわたって異なった表現がある場合にく > を使用してこれを表示する。

例示

英語表記	日本語表記	複数の訳語
Wilms' s tumor	ウィルムス<Wilms> 腫瘍	ウィルムス腫瘍 Wilms 腫瘍

2. 日本語訳を一つに選択するにあたって

ここ数年来の急速な電子化媒体の発達により ICD 及びその補助分類は、オンライン上等で利用されることとなった。今後ともこの方向性は一層加速されることが考えられ、ICD-O3 をこれらの媒体で支障なく利用することが出来るためには、過去の版で行われていた 1. の表記法を極力避け、一つの英語表記に対しては一つの日本語訳の選択が望まれるところである。

なお、この選択が可能となった場合に、従来 1. の表記法で示されていた用語で今回選択されなかったものについては、索引中に収載することとし、本文及び索引中に収載されたすべての用語について日本国内での使用を支持するものである旨の文章を日本語版の前文に明記することとする。

3. 日本語訳の選択について

資料は、ICD-O3 中の局在リスト及び形態リスト中において、1. の表記法で表された用語を一覧にしている。それぞれ「表 1. 局在用語の選択可能な用語一覧」及び「表 2. 形態用語の選択可能な用語一覧」の各カラム「原語」(英語表記)、「第 2 版日本語訳」、「選択可能な訳語」(1. の表記法を外したもの)について検討いただき、選択可能な訳語のうち最も適切と考えられるものを一つの英語表記についてそれぞれ一つ選択して、最右側カラムの「選択チェック」欄に○印等で明示していただきたい。

<参 考>

1. ICD-O3 (国際疾病分類腫瘍学 第3版 (仮称)) について

1990年の第43回世界保健総会にて採択された「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正 (ICD-10)」の普及を目的として世界保健機関 (WHO) は、各専門領域を補完するものとして、様々な補助分類を作成し公表している。がんに関連する診断分類である「国際疾病分類 腫瘍学 (ICD-O)」もその一つであり、過去にICD-9を基に第1版 (1980年) が、ICD-10を基に第2版 (1990年) が、それぞれ作成され我が国においても厚生省 (当時) がそれらの日本語訳をそれぞれ国際疾病分類腫瘍学 第1版及び同 第2版として作成し公表している。

近年、主に細胞遺伝学上の診断技術の進歩により血液悪性腫瘍の疾病分類が新しくなったことに伴い、2000年にWHOはICD-10の基でさらに第3版であるICD-O3を作成し公表した。

2. 社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会の委員構成について

専門委員会の委員構成は以下である。

(五十音順)

石原 謙 (愛媛大学医学部附属病院医療情報部教授)

大江 和彦 (東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻

医療情報経済分野教授)

坂本 穆彦^{*1} (杏林大学医学部病理学講座教授)

松尾 宣武 (国立成育医療センター総長)

丸林 葉子 ((元) 順天堂大学医学部附属順天堂医院診療録管理室課長)

元吉 和夫^{*2} (防衛医科大学校内科学第三講座教授)

※1 : 日本病理学会癌取扱い委員会委員長

※2 : 日本血液病学会用語委員

今後の予定について

ICD-03の日本語版は、本委員会において検討された内容を踏まえ、事務局にて整理の後、仮訳の修正を行う。さらに、詳細な検討が必要となった場合には、事務局より各委員あてに個別に依頼し検討を行う。

なお、ICD-03日本語版の公表は7月末を目途とする。

本委員会で検討された内容

- ・ ICD-03の正式名称
- ・ 目次の項目立て
- ・ 専門的な用語及び訳語についての解説文の作成
- ・ 各用語の日本語訳について
- ・ 内容例示の2段組構成（原語と日本語訳の対比）
- ・ 複数存在する日本語訳の用語の選択（日本病理学会へ要請）
- ・ 索引の編集
- ・ 正誤表の取り扱い
- ・ 付録（Appendix）の取り扱い